

『ライドフォーハート』

トロント補習授業校（カナダ）

小三 伊藤 一吹

（海外滞在年数約四年〇カ月）

六月のはじめ、カナダでは春のころ、ぼくはお父さんとライドフォーハートにさんかしました。これは、心ぞうのびよう気の人たちをたすけるためのイベントです。トロントの町の中を走る高そく道路の二十五キロコースか五十キロコースか七十五キロコースを自てん車にのって走ります。ぼくは、五十キロコースにさんかしました。ぼくは、本当に五十キロコースをさい後まで走れるかなあ。ととても心ばいでした。さあ、いよいよ、出発です。どきどきしすぎて心ぞうがばく発しそうでした。出発するとすぐ大雨がふってきて、お父さんが、「一吹やめようか。」と言いました。でもぼくは、

「ぼく、やめたくない。さい後までやりたい。」と言いました。自分が言った言葉なのにふしぎと、やる気がわいてきました。

ぼくたちが走っていると、レース用の自てん車をもっている人たちがぼくたちのとなりをビューンと通って行きました。ぼくの自てん車は四才からのっているミニミニ自てん車です。お父さんが一回こぐ間にぼくは三回ぐらいこがないとおいつけません。だからぼくは、ひっしにこぎました。そうしたらひっしにこいでいた時ほかのライダーの人たちがぼくに、

「すごいがんばっているね。」

と言ってくれたり、

「わお！五十キロやってる子で一番小さい子だわ。」

など、たくさんの人がぼくに声をかけてくれました。ぼくのとなりを通りすぎて行く人と目が合うとその人はかならず何か声をかけて、ほめたりはげましたりしてくれました。とて

もうれしかったです。さいごの方、ぼくの足は切れたみたいにかくかくでした。ゴールの所には、今までにライドフォーハートのプログラムがたすけた人やテレビ中けいの人がいきました。ほかには大きなポスターをもっている人もいました。ポスターには「グッドジョブ」"サンキューフォーセイビングアワライブズ"と書いてありました。スタートしてからゴールするまでのやく四時間のでき事でした。

ぼくはまだ子どもで、人をたすける力なんてまだないと思っていました。けれど、ライドフォーハートにさん加してみても、ぼくも人のやくに立てるんだなあと感じました。高そく道路をお父さんと自てん車で走ることなんてなかなかできないことだし、とてもステキなカナダの思い出になります。

次は、ナイアガラマラソンのロングコースランにさんかしてがんばりたいと思います。